

生ごみリサイクル 方式別一覧表

		発泡スチロール箱	密閉容器バケツ	家庭用生ごみ処理機	コンポスト容器	ミミズ箱
モニター使用器材		みかん箱またはりんご箱程度の大きさのもの2箱	バケツ(11リットル)2個とガーデンバグ(70リットル)1個	処理機1台 処理能力1.2~2.0キログラム	地上式(130リットル)または地中式(170リットル)いずれか1基	ミミズ箱1台 ミミズ600グラム
処理能力 モニター 平均	人数	平均3.2人	平均3.2人	平均4.0人	平均3.1人	平均2.5人
	投入量	約600グラム/日	500~600グラム/日	600~700グラム/日	700~800グラム/日	約300グラム/日
	種類	野菜くず、生花、果物の皮 など 肉、魚、食べ残しは避ける	生ごみの種類を選ばない	野菜くず、果物の皮、食べ残し など	生ごみ、食べ残し、枯葉、枯草など	野菜くず、果物の皮 など 肉、魚、食べ残しは避ける
	堆肥になるまでの期間	夏 2か月 冬 3~4か月 できる堆肥量はスチロール箱で5.4箱/年	夏 1~2か月 冬 3~4か月 できる堆肥量はガーデンバグで1.7袋/年	分解終了まで、微生物分解型で3週間~1か月、消滅型は2日、乾燥型は3~4時間	夏 2か月 冬 3~4か月	ミミズふんは使用開始後、3か月ぐらいで取り出せる。液肥はすぐに使用できる。
	その他	3週間~1か月で、箱が一杯になったら蓋をする。	バケツは約2週間で一杯になる。	4人家族ぐらいがちょうどいい。		1日にミミズの重さの約2分の1の生ごみを処理できる。
設置場所		軒下やベランダ	バケツは台所やベランダ ガーデンバグはベランダや庭	直射日光や雨が当たらない軒下 電源が必要	庭など、土のある場所 (容器は130リットルで直径約70センチ)	あまり直射日光や雨が当たらない場所
経費		経費はかからない (スーパーなどから不要なスチロール箱、家の不要な植木鉢の土を使用)	バケツ2個とガーデンバグ1個で約10,000円 米ぬかや微生物資材は約7,000円/年	本体5万円~∞ 補充用チップ2,400~17,000円/年 最大消費電力65~690W	容器は8,500~12,000円程度 米ぬかや微生物資材は約7,000円/年	ミミズ箱とミミズで約30,000円維持経費はなし
特徴		手間、経費がかからず、誰にでもできる。  スペースをとらないので集合住宅にも適する。  堆肥が出来るまで時間がかかるので気の長い人向き。 基本は土のみで処理。発酵促進のため米ぬかなども使用できる。	あまり手間がかからず、誰にでもできる。  置き場所を選ばず、スペースをとらないので集合住宅にも適する。  生ごみの分解が早いので、堆肥が早くできる。また、液肥も使用で	投入時に気をつければ、あとは手間がかからず分解される。  本体価格が高く、電気代や補充用チップなどの維持経費もかかる。  堆肥にするには2次処理が必要である。	投入時の生ごみの水きりと、投入後は適度にかき回すこと以外、あまり手間がかからない。  容器一つで堆肥化まで完結する。  生ごみの量が多い世帯にも対応できる。	ミミズふんや液肥は良質な肥料になる。また、ミミズのふんには生ごみのおいを取り除く働きがある。 ミミズが食べやすいように、薄く切る、細かく刻むなどの手間が少しかかる。  子どもの環境教育にも役立つ。